

# MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第25号 2011年4月

## もくじ

巻頭言・巨大地震と津波と環境カウンセラー	藤井 健史
平成22年度の活動報告と平成23年度の活動計画	川真田 直之・岩淵 敏男
MECCバス視察・研修会に参加して	横山 勉
トピックス:スカイツリー	糸井 守
新会員紹介	若林 高子
西東京市の環境施策について	西東京市みどり環境部環境保全課 田中 浩一



左:墨田区役所、隅田川、隅田公園とスカイツリー (2010年5月)

右:北十間川とスカイツリー (2010年9月末)

写真提供:糸井守 (詳しくは3ページに)

## 巻頭言

## 巨大地震と津波と環境カウンセラー

藤井 健史

3月11日午後東北・関東地域の太平洋沖でM9.0という観測史上始めて以来の巨大地震が発生しました。これに伴い高さ10メートル以上の津波が沿岸部を襲いました。三陸沖は以前から地震の多発地域であり、津波の被害を受けていたので対策は行われていましたが、今回の地震、津波は想定を超えたものであり、甚大な被害が発生しました。その中であって普段から避難訓練をしていた小・中学校では地震発生と同時に中学生が小学生をエスコートして所定の避難所に逃れ、さらに先の高台まで避難して全員が無事だったという胸を打たれる事例がありました。一方、地震発生後直ちに駐車場に関係者を集めて事後処置の打合せをしているところへ津波が押し寄せ殆どの方が犠牲になるという事例もありました。

EA21環境経営システムが強調している緊急事態の想定と対応策及びその訓練の重要性が明確に認識されました。

同時に発生した福島第一原子力発電所のトラブルは広く環境に影響を与える点でも、防御が難しい原子力

の難点を暴露した点でも、影響が多面的で長期間にわたるといってもきわめて重大です。

幾重にも張り巡らされているという原発の安全施策が役立たずとなり、原発の安全神話が崩れました。日本におけるエネルギー供給源の見直しが必須です。従来から言われている自然エネルギーの活用が一層促進されることになるでしょうが、急速には巨大な原子力エネルギーを代替することは困難です。我々の消費エネルギーの抑制が肝要となってきました。

地球環境を考えますと現在の65億の人々の生活の環境容量(エコロジカルフットプリント)はすでに地球の環境容量をオーバーしており、これまでの蓄積を消費しているのが現状です。技術開発によりエネルギー消費の効率化を図る事は重要ですが、それ以上に我々の消費生活行動を見直し、物質・エネルギーの消費を抑制したライフスタイルを構築することが重要だと思います。これは地球環境の保全にとって好ましいことであり、この面で環境カウンセラーの活躍する場が広がるものと考えています。

# 平成 22 年度の活動報告と平成 23 年度の活動計画

川真田 直之・岩淵 敏男

平成 22 年度では、退会者が数名ありましたが新入会者を併せて 50 名以上に会員が拡大しました。それに伴い MECC の活動内容も増加しました。

大部分の活動テーマは平成 21 年度からの継続事業ですが、新たにバス研修会を実施し、環境活動指導者研修講座を復活実施しました。さらに、MECC のメンバーである林家カレー子会員の環境寄席を MECC で活動支援することにしました。これまで実施してきた事業に関しても、少しずつ内容を拡大して実施するようになりました。

平成 23 年度の MECC 活動計画として各会員からは 18 件の活動が提案されました。多くは平成 22 年度からの継続活動ですが、新規活動も 3 件提案されています。

この中で、毎年参加希望者が多いエコアクション 21 活動については、平成 23 年度は市役所・商工会等への普及活動を MECC として積極的に進めていくためにも、事前に十分な打ち合わせが必要として、3 月 10 日に参加希望者が集まり、主要な行政区域ごとに小グループを作り、市役所等に訪問・説明活動を進めていくことを決めました。今後の活動の成果が期待されます。

区分	名称 (事業の概要)	平成 22 年度実績と平成 23 年度計画	
自主活動	運営 会報 (MECC だより) 発行	22 年度実績	年 3 回 (3 月・7 月・12 月) 発行
		23 年度継続	年 3 回 (4 月・7 月・11 月) 発行予定、発行部数約 500 部
	MECC ホームページの更新 (HP 操作可能者の拡大)	22 年度実績	毎月のフォローのみ実施、勉強会は 1 回実施
		23 年度継続	MECC ホームページの更新と作成勉強会の年 2 回開催
	環境リーダー研修講座 (市民の環境リーダーへの育成)	22 年度実績	11 月から講義研修 4 回実施、翌年 7 月まで実践研修予定、受講者 2 名
		23 年度継続	4 月～2 月の間で座学 2 回、実践 6 ヶ月、発表会 1 回実施
	「我が家の環境大臣」プロジェクトへの協力	22 年度実績	10 家族が参加し、結果を吉祥寺南町コミセンに展示 (5 月下旬)
		23 年度継続	「メックエコスターズ」によるエコライフへの取り組みを実践し地域での環境教育、取組への広がりを図る。
	多摩地域でのコネクトアップ事業 (MECC の活動紹介と交流懇親)	22 年度実績	10/21 (木) 吉祥寺南町コミュニティセンターで実施、武蔵野市長出席
		23 年度継続	23 年度は企画を変更したかたちで実施予定
	環境寄席開催 (ごみ減量・省エネ・防災等の啓発)	22 年度実績	5/30 (日) 漫才の林家カレー子他が出演して武蔵野公会堂で啓発活動を実施
		23 年度継続	5/29 (日) 武蔵野公会堂 昼・夜 2 回環境寄席開催予定 林家カレー子他多数出演
	バス研修会	22 年度実績	2/24 (木) 国立環境研究所の他、3 箇所の国立研究所 (旧) を見学
		23 年度継続	武蔵野市の助成を受け環境関連施設の見学予定
Q & A ライブラリ作成	【新規】	環境政策に係る質疑応答集を作成する	
EA 21 東京中央への活動支援	22 年度実績	運営・判定委員、検討委員派遣、事務所常駐支援、その他協力	
	23 年度継続	事務所当番、EA 21 普及セミナー等への協力、その他	
自治体単位での EA 21 構築指導 (EA 21 の普及活動支援)	22 年度実績	八王子市、町田市の自治体イニシアティブ実施	
	23 年度継続	多摩地区の主要自治体等に働きかけ事業者の EA 21 認証取得を図る (自治体への説明、事業者向け説明会の開催)	
受託	事業者への EA 21 開拓活動	22 年度実績	1 事業者から EA 21 構築コンサル受託、立川商工会議所を通じた普及活動
		23 年度継続	MECC へ依頼のあった個別事業者への EA 21 構築指導の実施
協力共催	日野市市民活動	22 年度実績	環境基本計画改訂作業に参加及び都市農業研究会の企画運営に参加
		23 年度継続	都市の農業を守り継続する方策・啓発イベント・勉強会 月 1 回企画・開催予定
	神田川サミット (神田川水系の交流会への参加)	22 年度実績	10/23 (土) 水道歴史館での神田川サミット 2010 に参加
		23 年度継続	10/22 に神田川ネットワーク主催で行う神田川水系の交流・検討会への参加
	神田川の水質調査 (16ヶ所) (全国一斉水質調査への協力)	22 年度実績	6/6 (日) 神田川水系 (井の頭水源～隅田川出口) 15 点の調査に協力
		23 年度継続	6/5 (日) 実施 全国一斉水質調査協力 参加 30 名 (神田川ネットワークスタッフ中心)
	井の頭池野菜いかだプロジェクト (空芯菜水耕栽培による水質浄化)	22 年度実績	22 年度も実施したが夏場の日照りのため収穫不良
		23 年度継続	5 月～10 月井の頭池にて空芯菜栽培を再挑戦予定
	外来魚の調査 (外来魚捕獲による魚類密度調査)	22 年度実績	新江戸川公園で 2 回、外堀公園で 1 回駆除調査を実施
		23 年度継続	7/18 新江戸川公園にてブルーギル、ブラックバスの捕獲網による定点観測調査。参加約 10 人。
子供の環境学習 (実践) (小中学童への理科教育推進)	22 年度実績	むさしのこどもエコフォーラムに参加し環境学習を実施	
	23 年度継続	武蔵野市の事業で小学校中・高学年児童への環境学習を実施	
井の頭池の生物多様性の保全	【新規】	外来魚の駆除、井水の溶塩除去、水草の選定植栽等の実施	
玉川上水水質調査 (19ヶ所)	【新規】	6/5 (日) 実施の全国一斉水質調査への協力予定	

## MECC バス視察・研修会に参加して

横山 勉

2月24日(木)、MECC主催の「バス視察・研修会」に参加した。「エコアップ協議会」、「むさしの歩こう会」からも参加者があり、総勢16名。目的地はつくば市の国立環境研究所。各種研究機関、その他にもいくつか訪問しようという計画である。

バス中で参加者の自己紹介や団体の活動を聞きながら、つくば市に向かう。最初の訪問先が産業技術総合研究所(産総研)。2001年、当時の通産省関連15研究所を統合した日本最大級の研究機関である。広い分野をカバーしているが、圧巻だったのはロボットの数々だ。映像だけだったが、人間型の美少女ロボ「HRP-4C 未夢」は曲に合わせてスムーズに踊っていた。「ほしいっ」と思ったのは私だけではないだろう。「鉄腕アトム」がそこまで近づいている。

次なる訪問先は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の筑波宇宙センター。いくつかのコーナーに、実物大の人工衛星や模型が展示されている。国際宇宙ステーションは、両脇に太陽電池の翼を広げた怪鳥といったいでたちである。その一角が、日本の「きぼう」だ。実物大の実験室は、入室可能。「2001年宇宙の旅」の宇宙ステーションとの比較は酷だが、何人もの飛行士が宇宙に常駐する時代になっている。

国立環境研究所では、最初に地球温暖化について講義を受けた。産業革命後の人間活動により、CO<sub>2</sub>濃度は急激に増加している。世界地図全体が真っ赤に染まるシミュレーター画像は、何度見てもインパクトがある。懐疑説に関する質問には、アピールが十分でないことを認め、CO<sub>2</sub>削減努力を続ける必要性を説いた。「恐怖の存在」は、小説として楽しめたが、温暖化そのものにも疑問を呈している。

その後、循環・廃棄物実験設備と水環境実験施設、に分かれて見学を行った。前者では、資源採取から廃棄までの過程で、資源・エネルギー利用の効率化や環境負荷低減を研究している。また、循環型の社会構築も目指している。廃棄物の熱処理と最終処分の一プラント実験室を見ることができた。

後者では、「水環境と生態系の関係」と「化学物質の水生物への影響」の研究について説明を受けた。研究に必要な藻類(生産者)・それを食べるミジンコ

(一次消費者)

それを餌にする魚類(二次消費者)を、それぞれ複数飼育している。生きものの面倒を見るのは大変で、休日は交替で出勤



・モニター(魚類)繁殖池にて

しているに違いない。

視察の概要説明など、添乗員役を務めてくださったのは糸井理事長。空き時間の采配などリーダーシップはさすがで、心の中で拍手を送ったものだ。

本イベントでやや残念だったことがある。武蔵野市の補助が出ている大型バスに対して参加者が少なかった点だ。ウィークディゆえ、勤め人は参加困難だったろう。一般市民の募集が難しければ、さらに範囲を広げて環境関連団体に声をかけてもよかったかもしれない。有意義な視察を多くの参加者で楽しめればと思う。

## 東京の新名所「東京スカイツリー」が世界一の高さに！

糸井 守

墨田区押上の「東京スカイツリー」の工事もいよいよ最終段階に入り、世界一の高さ634mに到達しました。地上部も水族館や様々なエンターテイメント施設が建設されていますので、完成時には一大観光スポットになるでしょう！なお「東京スカイツリー」の名称は市民からの公募によって決められたものです。

お勧めビュースポットからの写真を巻頭に掲載しました。是非一度おいであれ！

\* 隅田川テラスから、墨田区役所の上階部と隅田川、隅田公園等を取り入れたパノラマ風景

\* 墨田区の北十間川にかかる枕橋から水面に映るスカイツリーを取り入れた風景

## 新会員紹介



若林高子です。小金井市の野川に注ぐ湧水の保全をはじめ、ホタルの再生や水みちMAPの作成などに関わって約40年。ここ数年は、全国の水の土木遺産の取材を通して、昔の人々の水との闘いの歴史、国土を守る取り組みなどを紹介してきました。さらに水源林の保全へと活動の輪を広げ、森にすむ神々や自然信仰について学び始めています。

私は約65年前、満洲(現・中国東北部)からの引揚で、約1か月間、先の見えない避難生活を経験しました。シベリア抑留をふくめて過酷な体験が忘れ去られ、なんでもハイテク技術に頼り、国の安全神話を信じてきたなかで起きた今回の大災害。暮らしてから原子力まで、すべて「水が生命」を実感しています。

これからも「水」をライフワークに、草や木、土や石にまで神が宿ると信じ、自然に畏怖の念を抱き、水や木と共生してきた日本古来の文化を後世に伝える活動していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 西東京市の環境施策について

西東京市みどり環境部環境保全課 課長補佐  
田中 浩一

西東京市は、平成14年3月に環境行政の根幹となる「西東京市環境基本条例」を制定しました。平成16年3月には「西東京市環境基本計画」を策定し、持続可能な循環型社会の形成を目指し、「良好な環境を将来の世代に引き継ぐため」の環境施策に取り組んでいます。また、平成21年3月には、同計画策定後の法整備や新たな環境問題等の社会状況の変化や市の取組状況、課題等を踏まえ、平成25年度までの計画の見直しを行いました。さらに、平成22年3月には「西東京市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、地球温暖化防止に向けた取組みも行っていきます。

このような環境に対する取組みを実現するため、西東京市では様々な施策を行っています。その主だった施策をご紹介します。

一つは、市の温室効果ガス削減の取組みの一つとして、環境マネジメントシステムである「エコアクション21」を導入した市内事業者に対し、その導入費用の一部を市が助成するというものです。西東京市も市内事業者の一つとして平成20年から導入しています。

二つ目は、環境学習に対する取組みです。西東京市では、平成20年に環境学習の拠点となる「エコプラザ西東京」を開設し、環境に関する様々な講座や事業を行っています。このような施設は近隣市では初めての試みで、環境情報発信の拠点になるよう努めています。また家庭でも取組める環境学習として「エコ・クッキング」の普及にも力を入れており、特別な研修を受けた市民講師(ナビゲーター)による講座を実施しています。

最後に「住宅用省エネ・新エネ機器設置助成金制度」です。これは、住宅用太陽光発電システム等を新たに設置した市民に対し、その設置に要する費用の一部を助成することにより、住宅用太陽光発電システム等の普及を促進し、自然エネルギーの有効活用を図り、環境負荷の低減に寄与することを目的としています。毎回、たくさんの市民の方が応募され、環境に対する関心の高さが伺えます。

西東京市では、今後も様々な環境施策に積極的に取り組んで参ります。引続き、ご指導、ご助言等を賜りたく、よろしくお願いいたします。

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局  
180-0003 武蔵野市吉祥寺南町3-31-16 糸井守  
：0422-45-0352 FAX：0422-45-0353  
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/  
編集者：中西由美子